



帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

ぽんぽこ山「夢プロジェクト」始動

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

帝京大学小学校の校庭の横には、ぽんぽこ山があります。正式名称はげんこつ山といい、帝京大学小学校となる前の多摩市立竜ヶ峰小学校の時代には、アスレチックなどの遊具があったようです。現在のぽんぽこ山には、その姿を見た子もいるようですがタヌキやハクビシンが住みついています。スタジオジブリの「平成狸合戦ぽんぽこ」が多摩丘陵を舞台にしていたことを考えると、その自然が学校の敷地内にあるのは、素晴らしいことだと思います。しかし、今のぽんぽこ山は、子どもたちが山に入るために使っていた階段の名残はあるものの、倒木に遮られて立ち入り禁止区域となっています。日本各地で里山が放置され荒れ果てていく、その状況に似ています。

私は、この素晴らしい山を何とか「子どもたちの学びの場」にしたいと考えていましたが、専門家の助けを借りなければできない事業でした。そんな話を色々な方にしてきた折に、アフタースクールから適任者を紹介してもらいました。その方は、多摩市の公立小学校の校庭里山づくりに関わったことがあるとのことで、すぐにお会いする機会をもちました。塚原さんという方で里山愛にあふれており、私の考えている「子どもたちのアイデアを生かし、探究、生活科を始めとした教科横断型の学びを創り出す」こととご自身の活動の軸が同じで、構想を話しているとあっという間に時間が経ってしまいました。

目的	ぽんぽこ山を学びのフィールドとして再生し、学校の魅力を増す	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●計画的に学びの場を創り上げる ●STEAM教育を視野に入れ、教育課程を作成する ●児童の主体的な活動を重視する ●教師の負担を軽減しながら実行する 	
方向性	専門家と学校の行動連携で実施する	
	児童	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科や特別活動、探究の学習へと広げ、課題解決型の学習を行っていく ・SDGsの学びの場としていく
	教師	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩丘陵の豊かな自然の保全に努める ・デジタルだけでなく、リアルな学びの場として活用する ・カリキュラムマネジメント力を発揮し、楽しみながら教育計画を作成する

企画を学校内で煮詰め、冲永理事長・学長に説明にいき、「ぽんぽこ山夢プロジェクト」が来年度の4月からスタートすることができることとなりました。この活動に教科書はありません。SDGs、サステナブル社会を学びながら、教科を超えたSTEAM教育に位置付けられます。私にもゴールイメージはまだ見えません。今後、学級や学年、委員会など多様な集団で子どもたちが企画を立て、塚原さんと相談しながらある時は少しずつ、またあるときは一気に里山化が進むのだと思います。ぽんぽこ山の落ち葉を集めてたい肥化し学級園の植物栽培に活用

ぽんぽこ山「夢プロジェクト」の計画

用する、間伐材で炭を作り川の水の浄化をする、自然の材料を生かした生活科や図工の作品をつくる、榎木からシイタケを栽培するなど、帝京大学小学校内での循環型社会ができるかもしれません。その活動の過程では、iPad等を活用した調べ学習が必須となります。デジタルとリアルの融合した活動となることも楽しみです。

今のところ5年をスパンとして活動を進めていくつもりです。活動の結果としてでき上がった作品や製品をネット販売する学校内企業を立ち上げれば、それはアントレプレナーシップ教育となり、実際にネットトラブルについて学んだり、ホームページの作り方を学んだりすることに目的意識をもって取り組みます。

教科教育での学びを基盤として、自分たちで課題を設定し解決していく学びに広がっていく、これが本当の活用する力であり、学校教育に求められている「主体的、対話的で深い学び」につながると考えています。